

動画撮影を活用した動作解析と再現性の向上及び学び合える体育授業の実践

実践研究のねらい

aim

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた、ICTの活用による運動が苦手(嫌い)な児童・生徒への効果的な指導方法の開発
- ・体力・運動能力や運動・スポーツに対する意識の向上に向けた取り組みの実施を図る

具体的な活用方法

use

- ・個々の子供に応じたよりきめ細やかな指導方法の開発・実践(実態に応じた指導方法の開発等)
- ・知識・技能の定着を助けるデジタルドリル(手本動画の視聴等)

指導・支援の工夫

devise

単元

2年生：陸上競技(ハードル走)

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学	オリエンテーション	リード脚・抜き足の練習		ハードルを跳び越える		スタートからゴール			記録測定及びまとめ	
習	学習のねらいや進め方等の確認	リード脚・抜き足の動きの理解(デジタルコンテンツの視聴)		走る動作のリズムを変えることの理解		スタートから1台目までの歩数を決めることの理解			スタート合図、計時、記録等の分担	
活	ICT活用による学習カード記入・提出方法の確認	さまざまな高さのハードルを使っての練習		さまざまなインターバルのハードルをリズムよく跳び越える練習		個の能力に合わせて歩数を決める			目標記録を目指し、リズムよく走り切る	
動		仲間の動きを見て、アドバイスをする				タブレットで動画撮影、グループでフォームについて教え合い活動			学習カードにまとめの記入	
						50m(5台設置)をリズムよく走り切る				

活動概要及び工夫点

・振り返りや自己評価等のデータ化

授業の振り返りや自己評価をデータで提出させることにより、提出状況や評価の集計作業の効率化が図れた。また、目視での実技テストでは、順番の待ち時間が長くなったり、細かな動作を見逃してしまったりするが、動画で記録をすることにより、運動時間の確保やポイントを絞ってじっくり評価できることにつながった。

・撮影する位置の工夫

ハードリングを撮影する位置によって、フォームのチェックポイントが変わることを確認し、数カ所の角度から撮影をした。それをコマ送りやスロー機能等を使って再生し、グループでフォームについての教え合い活動につなげることができた。

・ゴールイメージの共有

単元のはじめにハードリングの手本動画を視聴し、理想とする動きやハードリングなどを全員でインプットした。単元が進む中でその動きに近づけるためには、どのように技能の向上を目指せばよいかを考えると、自己や他者の動きを見て、修正すべきポイントに気付くことができたり、アドバイスしたりできることにつながるために、常に手本動画の動きを意識させた。



ハードリングの撮影

正面・真横・斜め方向の角度から、グループで順番に撮影する。スロー再生機能を活用し、即時に自分のフォームを確認する



グループによるフォームチェック

めあてに沿って、授業の前半と後半でのフォームの変化やハードリングにおいて意識したポイントをグループで交流する

成果と課題

results & tasks

成果

- ・ハードルの授業に抵抗を示している生徒が多い中、誰もがやってみようと思える動きから始め、段階的にハードリング技術を高めていくことで、主体的に考えながら授業に臨む生徒が増えた。
- ・実技テストの形態や一斉配信等を効果的に活用することで、集合する回数を少なくしたり、順番待ちの時間を減らしたりすることができ、生徒の活動時間が確保できた。
- ・さまざまな角度から動画撮影したものをコマ送りやスロー機能等を活用することで、グループで交流しながらコツを伝えたり、理想のフォームに近づけようと励ましたりすることにつながった。また、フォームの確認や動作のイメージ等にICTを効果的に活用することで、教員が全体を把握しやすくなり、個に対応しやすくなるとともに、自分たちで指摘し合ったり、練習方法を工夫したりする場面が増え、効率的に活動できるようになった。
- ・運動場を記録していくことで、自らの成長段階を振り返ることができた。

課題

- ・屋外でタブレット端末を使用する際の砂埃や破損等、環境面の課題をクリアするには、タブレットカバーや安定感のある三脚などが必要となり、準備するには多くの費用がかかる。
- ・自分のフォームや動作を確認することにより、理想の形は再現しやすくなったが、もともと体力や運動技能の基礎が身に付いていない生徒を高めるところにまでつなげることが難しい。学習意欲の高まりをどのように活動の質につなげていくかが課題である。

